



中学校授業参観・懇談会

1月22日(水)の中学校1,2年生授業参観、1,2,3年生懇談会に来てくださり、ありがとうございました。

中学生は、これまでの学びを生かして新しい学びをすすめることが多くなります。学びをすすめるにあたって基本となる内容をしっかりと定着させることで、新しい学びに備えることができます。そのために、学校での学習と家庭での学習をつなげることが大切になります。進路を見通して、学校と家庭が連携して、子どもたちに確かな学びの力をつけていきたいと思っています。

懇談会では、時間をかけて子どもたちのこと、学年のことを学年担当と話し合ってくださいありがとうございました。これからも、子どもたちの望ましい成長に向けてともに考えていきましょう。よろしく願いいたします。

薬物乱用防止教室

テレビや雑誌、インターネットからのさまざまな情報は、小中学生にも大量に降り注いでいます。薬物乱用に関する情報もその中に紛れ込み、皆さんが知らないうちに、各自の手元に届いています。

薬物乱用がなぜ「ダメ」なのかというと、人間が生活していく上で最も大切な脳そして、神経や内臓を侵してしまいます。さらに、薬物は乱用すると、依存症を引き起こし、精神障害を発症させます。一度、ダメージを受けた脳は、決して元の状態には戻らないようです。

これらの内容を、吉野警察署の方が、1月23日(木)に開催した「薬物乱用防止教室」で中学校1,2年生と小学校6年生に伝えてくれました。

薬物乱用問題に普段から関心をもって、薬物乱用防止に対する「ダメ。ゼッタイ。」の正しい知識を身につけて、薬物乱用を許さない社会環境をつくっていきましょう。

わたしたちができることは

阪神淡路大震災が発生してから1月17日(金)で30年を迎えました。これまでの防災・減災の取り組みや新たな防災テクノロジー等を活用して、災害に強い町づくりを全国各地ですすすめているだけでなく、各家庭や各自でできる災害への備えもすすめられています。

私たちが住む日本は、地震の多い国です。地球上の大地震の20%が日本で起きているとも言われています。阪神淡路大震災以降も、日本列島各地で大きな地震がたびたび起こりました。14年前の3月11日に起こった東日本大震災、1年前の1月1日に起こった能登半島地震は皆さんも知っていることでしょう。能登半島は9月に大雨による水害もありました。

テレビ等を通じて現地の災害の状況やそこで生活する人々の様子を、私たちは知ることができます。私は、これらの報道を目にするたびに、各地の復興が早くすすみますようにと願わずにはられません。と同時に、今の自分には何ができるだろうか、もし、自分がここで生活をしていたら、どのようなことができるだろうと考えてしまいます。吉野町がある紀伊半島の沖合を震源地とする東南海地震が起こると予測されていますし、地球規模の気候変動による(とみられる)災害はいつ、どこでも起こりうる状況です。被災地の状況。心が痛む状況ですが、そこでの出来事を自分事として考えることは大切だと思います。自分ならどうするだろうと。

災害を機に、他の地域へ生活する場所を移す人。災害後、生活を立て直して今までどおりその地で生活を続ける人。どちらの選択も、人々のせいっぱいの生き様が報道で紹介されていました。

心の痛み、悲しみを抱えている人に寄り添い、前を向いて生活を続ける人の支えになれる人でありたい。普段の生活においてもそうありたいです。